

**現代都市居住におけるニューノーマル住環境の  
建築計画学的手法の研修**

| 実施期間                        | 実施国 | 共同実施機関             | 対象  | 参加者  | 本学担当教員      |
|-----------------------------|-----|--------------------|---|--|-------------|
| 2024年09月14日<br>～2024年09月23日 | 日本  | チエンマイ大学<br>メージョー大学 | 建築学科、<br>環境システム学科、<br>建築学専攻、<br>地域環境システム専攻<br><br>学部1～4年生、<br>修士1年生、<br>修士2年生、<br>博士1年生、<br>博士2年生、<br>博士3年生 | (芝浦工業大学)<br>学生10名、<br>学生バイト3名、<br>教員1名<br><br>(チエンマイ大学)<br>学生5名、<br>教員1名<br><br>(メージョー大学)<br>学生5名、<br>教員1名 | 清水 郁郎(建築学科) |



チエンマイ大Kitika先生の講義

2020年から始まったCOVID-19パンデミックは、世界規模で人類に大きな変革をもたらした。各国はロックダウンや行動制限などの過酷な物理的対処により、この災禍を乗り切ろうとした。現在、日本では5類移行され、通常の感染症と同等の扱いとなつたが、この感染症が終息したわけではなく、「新しい日常」に戻りながら多くの対処法が必要とされている。タイは世界最大規模の観光立国だが、度重なるロックダウンにより、製造業に匹敵する経済規模の観光産業が壊滅的打撃を受け、社会基盤そのものが現在に至るまで回復されていない。一方、日本政府が今年に入り誘致を検討し始めたリモートワーカー「デジタルノマド」の先進地でもある。インバウンド消費の増加を従来とは異なる空間利用を促進することで達成しており、新たな仕事改革とそれに必要な空間的知見を日本側が得ることが可能である。このWSでは、パンデミック経験をした日本とタイの大学が、世界有数のメガリージョンである東京でどのような対策が取られ、現在も展開されているのかを、さまざまな施設、場所、空間を実地に見学し、具体的な方法や計画の実際を研修した。そして、研修で得た知見を利用して、日・タイの混成チームが狭小住宅の密集地(谷中)を調査し、新しい生活の足掛かりになる設計計画を提案した。



丸の内ストリートパークでの研修



谷中の研修



新宿のデジタルノマドカフェの見学



武蔵野プレイスでの研修



ファイナルの成果発表



最後に全員で記念撮影